

ニーズレター

(2006年 秋号)

グループホームネット 香川



もくじ

理事長挨拶	……(2)
スタッフ十人十色	……(4)
ぼちぼち「コーポ ビアーズ」便り	……(6)
ビアーズ2号館 便り	……(7)
事務局だより	……(7)
活動カンパのお願い	……(8)

理事長挨拶

猛暑の夏後半もようやくのことで終わり、急に秋めいてまいりました。皆様方にはいかがおすごしでしょうか。

グループホームネット香川の今年度前半は、新しく自立支援法への移行に伴い、さまざまな手続きに追われて過ぎていきました。暑い中駆けずり回った事務局の活躍で、何とか書類申請を終えたところです。

さて、一段落して10月を迎えると、今年も新規のグループホームを設立する時期にさしかかってきました。従来グループホームにも、時折、入居したい希望者の方から連絡があるようです。また、グループホームというものを利用してみたいという潜在的なニーズも、もっと幅広く存在していることでしょう。今からの時期、また新たに入居募集をかけますので、グループホームで生活してみたいとお考えの方は、まず事務局かグループホームのほうに一度ご連絡ください。募集のリーフレットなどを作成しておりますので、お知り合いの方などが必要な場合にも、ご連絡いただければお渡しできると思います。

グループホームへの受け入れについては、すでに設置しているものと、新規設立するものとで多少タイミングやゆとりに差が生じてきます。まず、すでに設置されているグループホームについてですが、新体系への移行を見越して、1ユニットのグループホームで受け入れる入居者の数を増やす可能性が出てきました。このような場合は、比較的時期にとらわれずに、入居の可能性を確かめながら、順次面接の日程を組んでいくことが出来ます。これに対して、これからのように、新規のグループホームを設置する場合には、グループホームとなる物件を探すのと平行して入居希望者を募り、グループホームの立地を決定しながら、入居を決めていくこととなります。従来グループホームはそう大幅に増員できませんので、基本的には新規のグループホームへの入居を考えていただくこととなります。



そこで、グループホーム入居を希望される方は、この時期、タイミングよく募集に間に合うように、早めに連絡を取っていただくのがよいかと思います。ご本人でも、ソーシャルワーカーの方でも、ご家族からでも構いませんが、まずはご本人のご希望をお聞きします。入居を希望される方にとって便利な生活圏や、さまざまな条件が人によって異なっているでしょう。そうした条件を、当法人のほうでも把握して、設立物件探しの参考にできたら幸いです。

グループホームを2つ設置して、やはり地域生活へのニーズはまだまだあることを感じさせられています。これからも引き続き新しいグループホームをできるだけ身近な存在として設置していく計画です。そこで生活したいという方のための情報の提供に、会員の皆様もどうぞご協力ください。よろしくお願いいたします。

(理事長・岩佐亜紀)

スタッフ十人十色

改めて「NPO法人 グループホームネット・香川」スタッフ10人を思い浮かべてみた。みんなそれぞれ面白い個性を持っているなあと思っていたが、こうして改めて考えてみると、本当に十人十色やなあをつくづく感じる。目を瞑って改めて一人一人を頭に浮かべて見ると結構面白いものがあると気付いた。

「10人10色」という言葉はいろいろなところで遣われており、自分などはいい意味ではあまり遣わず、話がまとまらなかったときや物事を諦めるときに、「10人10色やけん、仕方ないわ」というふうに諦めや納得させるときに遣っていた。

その人のカラーは環境、学歴、年齢といったいろんな要素から出来ている。初対面とか何も話さないでいる間の他人のカラーは、自分の頭の中で創造し、勝手にイメージして作ってしまう。そのイメージが変化するのは、具体的な事象を通してその人を見たときである。しかしまだ独断と偏見の域にいる。自分も混じって意見を述べ言葉が飛び交う中に入れたとき、他人のカラーが少しずつ理解できると思っている。

わがNPO法人の理事はほんとうに「10人10色」である。その「十人十色」は、今までに積み重ねてこられた専門知識と経験年数、取り巻く環境、性別、性格等が作用しているのが十分に理解できる。語り口調も発言の仕方も、発言するタイミングも、そのときの顔の表情も態度もみんな違う。目標を決めたり今後の方針等を決めるときなど、遠慮のないストレートな意見が飛び交うのはしょっちゅうである。それも長時間かけてである。問題が難しくなり体にも言葉にも熱が入ってくる時、そして結論がバラバラでまとまらないときに「10人10色」という言葉を強く感じる。論議に参加するほどの知識と経験を持たない自分は、話している人の顔や態度、話口調等を観察している。「おお、こわ、此处は自分のいるところではない」と思ったことも何度かあった。そんな時自分を救ってくれたのは「10人10色」という言葉であった。

「一人ひとりが違って当たり前、意見がいっぱい出て普通」という体験ができるのは、この10人のスタッフといるときである。かみ締めるように発言する人。回りくどい言い方をするひと。単純に結論を出す人。何を言わんとしているのか理解に苦しむ人。きまって後の方からいい始める人。ゆっくりゆっくり話す人。がんがんと一気にいう人。静かに話す人、説明が長い人。これらのスタッフから十人いたら十通りの解釈があって、10とおりの生き方があるっていうことをしっかり学ぶことができる。

(T・T)

これからの事

棚の荷物の中からニーズレターの創刊号が出てきた。日付は1997・11となっている。今から9年前のこと。そのひと月前の10月17日に香川の子精神保健福祉を考る会の第1回例会が県総合福祉会館で行われたという記事が表紙を飾っている。

「当事者・家族・専門家など27名が集まり、それぞれの思いを語る会を開きました」と書いている。それからほぼひと月ごとのペースでニーズレターは発行されることになった。

当時編集の担当をしていた者としては、「ニーズレターを読むのが楽しみです」という声を聞くたびに密かに「ガッツポーズ」をしていたことを思い出す。

そして今。ニーズレターの発行回数は少なくなったものの、停まることなく続いている。また会の目的も、「グループホーム」を作ることに力を傾けることとなり、名称も「グループホームネットかがわ」へと衣替えした。

ポストの数ほどグループホームを！という合言葉は、絶えることなく今も生きていると思う。絵に描いたもちを食べることはできないというが、まずは描くことから始まるものだろう。

自立支援法が施行されるようになったが、国が本当に障害者の自立を支援しようとしているとは思えない。なんだか「たぶらかされている」様に思えてならない。

しかしここは考えようで、支援法に頼らない支援法外の活動をどう描くかの方が大事なように思う。そのことが自立につながる事になりそうだ。国に「どうか支援させてください」というような活動を描き出すことだろう。知恵を出し合って、自分たちの生きる道を模索したい。

(う)



「(c) SaliComcom」

ぼちぼち「コーポ ビアーズ」便り

夏は暑さでグループホームのメンバーは、少しぐったり気味です。毎週、日曜日の茶話会のお菓子はもっぱら「かき氷」が主流で、みんなで暑さを乗り切るために楽しく過ごしています。

さてさて、そんなメンバーの近況報告なのですが……。少しずつメンバー同士の交流が増えてきているように思います。茶話会で少しずつだけど話をする機会が増えたからか……。？それとも、僕が厳しいからメンバー同士で結束しているのか……？

なにはともあれ、協力して生活をおくることができるのはいいことだと思います。メンバー同士で話ができ、いろいろなことを解決していったくれたなら、更なる自立に向けた生活ができるのではないかと考えています。

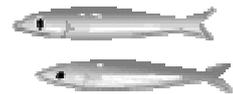
「親はなくとも子は育つ」とはよく言ったもので、支援者が支援することだけが全てではないのだと思いました。

あとグループホーム全体に関連していうと、障害者自立支援法が施行されて5ヶ月ほどたちました。メンバー自身がこの法律にてよって劇的に生活が変わるわけではないのですが、不安はたくさんある様子です。

変わるのはいかたないとして、もう少し準備をしっかりとしてからにして欲しかったと思う今日この頃です。

今年は、これから新しいグループホームの立ち上げという目標を達成するための活動を行う予定になっています。これも、新法の影響で10月以降になりそうですが、地域で暮らすことを望んでいる人がたくさんいるので、これまでのグループホームと新しいグループホームの両方がうまくいくようにがんばりたいです。

(Shu)



ビアーズ2号館 便り

暑い夏が終わり急に秋の気配となり、体が対応できず、だるさが残っています。夏にはエアコンより経費節約になると言うことで、扇風機を電気店へ買いに行きなんと2000円で扇風機が買えるというのでビックリしていました。

第2・第4月曜日の入居者会議では、私からあまり押しつけないで、入居者の意見を聞こうと思っているのですが、改まって会議となるとなかなか発言がなく紅茶+ケーキを食べる茶話会になっています。

第2・第4水曜日の夕食会のほうが、食べながらのせいかな？話題が豊富です、商店街まで自転車で10分程度ですので、土曜日曜には商店街にでますので、どこの食事が美味しいとか？古着屋がどこにあり、何がいくらぐらいだとか？いろいろな情報が行き交います。

新法に基づき6~10人体制と言うことなので、秋には6人体制に持って行けたらと思っています。

(乙黒)

事務局だより

春号のあと、すぐに総会がありましたから、総会資料の準備をし、無事に総会を開催することができました、総会はめずらしく理事が全員出席をして、良き総会を終えることができました。

総会において、事務所移動の件で財政がきびしいので、事務所を事務員宅へ移すことに決め、会議は理事の1人が経営する琲琲専門店の閉店後に借りるようになり、総会後に総会資料と事務所移転届けを県庁、法務局へ手続きに足を運び、その後7月末までは引っ越しの準備で忙しく動き回っていました。

皆さまの協力を得てなんとか、7月末に引っ越し終了しました。

月24日県庁の新自立支援法の説明会により、山ほどの書類を9月1日までに提出と言われ、あぜん？暑い夏はゆっくりと出来ると思っていましたが、暑い夏の間、書類づくりに奮闘してなんとか、8月28日に書類提出終了・・・

ここで1年遅れの、事務員の紹介をしたいと思います、生まれは北海道・苫小牧育ちは愛知県春日井市、高松には6年前に上陸、年は58才、やもめ歴16年、娘が2人・仕事は自動車会社~三流商社~現在事務員兼世話人をやらせてもらっています。今後とも、よろしくお願ひします。

(乙黒)

活動カンパのお願いです！

会員の皆様には、日頃より当会の活動に物心両面からのご協力をいただき、ありがとうございます。

さて、発足以来「ポストの数ほど」(＝地域の誰でも利用可能な普及を!)と夢抱いてきたグループホーム設置活動は、今年度より本格的な増設計画に着手し、新たに第2グループホーム開設の運びとなりました。この間培ったノウハウを生かし、県下に順次数を増やしていく予定です。

ところで昨年度、設置計画の予算見積もりを行った結果、認可のうえ補助を受け運営を軌道に乗せるまでに要する立ち上げ諸経費は、1単位のグループホームあたり、ざっと100万円近くなると考えられます。当会にとって収入にあたる恒常的な活動はグループホームの運営のみですが、利用者の負担を増額することは、それが生活に直結するだけに、極力これを避けてきました。しかし、会としてそれ以外の収益活動に取り組む余裕を作り出すことは、なかなか難しいのが現状です。

そこで、ここはひとつ、会員の皆様を中心として当会の活動趣旨にご賛同くださる方々に、広く資金協力のお願いを呼びかけることといたしました。

誰にとっても障害を抱えながら地域生活が可能な社会、本人の意思を尊重した自立のあり方について、制度面から広く議論されているまさにこの時... 実際に暮らしていく上での現実問題を、より良い生活の場を提供することで支える「グループホーム」、その「自立」への柔軟な利用可能性にご期待いただき、有意義な“投資”をお願いしたい!という熱き思いです。カンパや出資などご都合のよい方法で、グループホームの立ち上げ資金集めにご協力を、是非よろしくお願いいたします。

正会員 年会費3,000円 / 賛助会員 年会費2,000円

<振込口座> 大変恐縮ですが、手数料のご負担をお願いします。

【百十四銀行】 中央市場支店 店番213

普通預金 0252017

特定非営利活動法人 香川の精神保健福祉を考える会
理事長 岩佐 亜紀

【郵便局】 01670-4-5576

特定非営利活動法人 香川の精神保健福祉を考える会

グループホームネット 香川

(発行) 特別非営利活動法人 グループホームネット香川

連絡先: 香川県高松市伏石町

TEL&Fax: 087-867-5932

MAIL: npo-ghnk@mb.pikara.ne.jp